

※鳳支部ニュース「ちくさだより」
で掲載されたものです

家族がわからなくなっても戦争の記憶は脳に刻まれていた父

石田 悦司さん

団塊の世代の私は戦争を知らない世代である。

しかし明治、大正、昭和を生きた私の父の青春時代は戦争に明け暮れていた。

父は大正3年生まれで、学校を出てから日中戦争のため、満蒙国境の警備についていた。一度日本に戻ってきて母と結婚し、私の兄が生まれるが、すぐに太平洋戦争が始まりフィリピン戦線に送られた。フィリピンで終戦を迎えるが、すぐには帰国できず、しばらくアメリカ軍下での抑留生活を送った。マラリアに感染し、悲惨な状況だったという。

戦時中に生まれた私の兄は、成長することなく戦時下で亡くなった。母も空襲を逃れ、父の実家のある徳島県で疎開生活を終戦まで続けた。

そんな父も2002年に88歳で耳原総合病院で息を引き取った。

亡くなる5年位前から認知症で、息子である私や母さえも認識出来なくなり「いつもお世話になってます」と言っただけを出ていくつとす。どこへ行くの?」と聞く。「家に帰ります」と言っ。

徘徊の頻度が増え、夜中に「敵襲来!みんな伏せろ!」などと、大声をあげて寝言を言っ。

横で寝ていた母はびっくりして何度も飛び起きたという。

私たち家族を認識できない父でも、若い頃経験した戦争の記憶だ

戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載しています。

私の戦争体験 (19)

戦争放棄を謳った世界に誇れる憲法

黒田さん

安倍首相は年頭の記者会見で、今年の通常国会に自民党憲法改正案を提出し、2020年のオリンピックの年に、改正憲法を施行すると述べました。いよいよ9条をめぐる攻防の年となりました。

私は戦争を知らない世代ですが、小さい頃から悲惨な戦争体験をたくさん聞き、二度と戦争をしてはいけないと強く思っています。ですから、原爆まで落とされたこの国で、実際に9条に自衛隊を明記して改憲をし、戦争する国に変えようとする首相が現れるなんて思ってもみませんでした。

戦争放棄を謳った日本国憲法は世界に誇れる憲法です。世界ではその素晴らしさに共感する人も多く、9条の碑が建つてる国もあるそうです。

去年「CAN」(核兵器廃絶国際キャンペーン)がノーベル平和賞を受賞しました。

9条を守る運動も続けていけば、「平和憲法を持ち続けている日本国民」がノーベル平和賞を受賞する日が、もしかして来るかもしれない。

これが理想で終わらないように、また子どもや孫の世代が戦争で苦しむことのないように、微力ですがコツコツと署名を集めたいと思います。

お楽しみクイズ クロスワードパズル

●応募方法／郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・友の会に対するご意見等を記入のうえ、
あて先／〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-2
友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてにご郵送ください。
●しめきり／2018年7月11日(水)消印有効
●当選発表／厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品(図書カード5000円分)を、賞品の発送をもって発表に替えてさせていただきます。
●クロスワードパズル解答はがきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただきます。ご了承ください。

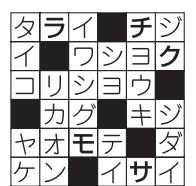
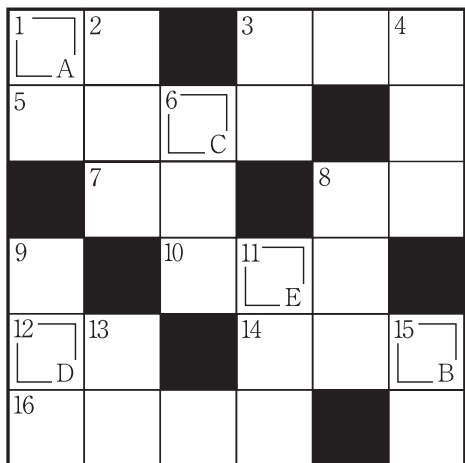
タテのキー

- ①九州の〇〇九重国立公園
- ②陸上の道は陸路。空は
- ③腐っても〇〇
- ④淑女の対
- ⑥年表を丸—する
- ⑧親睦会の—を務める
- ⑨私立学校の略
- ⑪—が絡んだ工事汚職
- ⑬〇〇を採ります、賛成

ヨコのキー

- ①〇〇循環に陥る
- ③青年よ—を抱け
- ⑤相思—
- ⑦〇〇より証拠
- ⑧〇〇衣装屋で借りる
- ⑩首の長い動物
- ⑫〇〇ぶち
- ⑭区別。—をつける
- ⑯膝の—運動をする

カギを解き、二重ワクに入る文字をABC順に並べてできる言葉は何?



●4月号の答「サクラモチ(桜餅)」
●応募数/84通

短歌

散布終え つかれし体に 庭の木々
礼の言うごと 葉のかがやけり
二人して 桜の下の 赤道を
話しながら ゆっくり歩こ

俳句

有明や 車輪梅のせ 一輪車
朝、脇道から突然現れた野良着の方の車輪梅一枝
葉桜と なりて二度咲く 桜餅

川柳

雨の音 せせらぎの音と になりけり
傘マーク 二人の五と昔

十年を一言と言うらしいので50年前の出来事

*句を詠む時の情景や思いもお寄せください。

*俳句・短歌・川柳の次回締め切りは、2018年7月11日(水)です。

*特に、俳句・短歌のご応募お待ちしております。

佐藤 芳夫
水野 茂子

安東 利彦

宮本 清志

山本 直美

笹岡野々花

編集後記

機関紙「とも」6月号の校正が終わりがけのことだった。「西城秀樹氏死去」とのニュースが流れた。63歳という若さだった。僕は今年50歳になる。小学生の時に新御三家として、西城秀樹・郷ひろみ・野口五郎と。小さい頃、男子の間では圧倒的に西城秀樹氏が人気があったように覚えている。それは、やはり男らしいアクション、迫力の中に勇ましく、勇気づけられるあの声だったと思う。広島

(安部 公)

堺生まれで、若い頃に2、3年大阪市内にくらしていたことがあります。原山台に十数年暮らして、現在は、若松台に住んでいます。



会員さん紹介 ③③

泉ヶ丘西支部
きただ りっ子さん
北田 律子さん

したことです。当時の産科の先生が非常に良かったです。その後、40年ぐらいつきあいになりますが、先生には恵まれていると思います。

友の会では、支部のない泉北の若松台の機関紙「とも」の配達と月一回の機関紙の仕分けをしています。

配達者の懇親会がきっかけで、泉ヶ丘西支部のバスツアーなど企画に参加しています。日々、外へ出かけ

が、今後時間もあれば参加していきたいと思っています。

(文・写真 機関紙編集部)

県出身、今思えばヒット曲「傷だらけのローラ」は戦後原爆などで傷だらけになった日本を立ち上げさせるためのパワー曲のような気がしてならない。もう彼のパワフルなステージや笑顔が見えなくなるのが辛い。でも僕らの世代や子どもから大人までいつまでも心の中に焼き付いていることだろう。